平成15年度

常滑港付近沿岸流観測報告

平成16年1月

第四管区海上保安本部 海洋情報部

1. 始めに

常滑港沖の海域は、中部国際空港の建設が行われており、周辺海域の海況変化が考えられる ため、海図W 1025 に記載されている既存の潮流矢符(3 点)の検証及び船舶の航行安全、防 災、海難救助、漂流予測等のための基礎資料を得るため実施した常滑港付近沿岸流観測の結果 を報告する。

2. 観測の概要

(1) 観測海域及び測点

図 1-1 に示す常滑港付近の 4 測点 (図 1-2)

(2) 観測期間

測点 A-1 平成 15 年 5 月 14 日から 5 月 30 日まで(17 日間)
測点 A-2 平成 15 年 5 月 19 日から 5 月 25 日まで(7 日間)
測点 B-1 平成 15 年 6 月 23 日から 7 月 9 日まで(17 日間)
測点 B-2 平成 15 年 6 月 23 日から 7 月 9 日まで(17 日間)

(3) 観測船

測量船「いせしお」

(4) 観測班の構成

(現地作業班)

	班長	第四管区海上保安本部海洋情報部海洋調査課	主	壬海	詳詳	調査	官	須藤	幹男
	班員	第四管区海上保安本部海洋情報部海洋調查課	海	洋	調	査	官	福山	一郎
	班員	第四管区海上保安本部海洋情報部海洋調查課	海	洋	調	査	官	並木	正治
	班員	第四管区海上保安本部海洋情報部海洋調查課	海	洋	調	査	官	池田	信広
	班員	第四管区海上保安本部海洋情報部海洋調査課	海	洋言	調 査	官	付	後藤	礼介
	班員	第四管区海上保安本部海洋情報部海洋調查課	海	洋言	調 査	£ 官	付	安原	徹
	班員	測量船「いせしお」	船				長	山田	健志
	班員	測量船「いせしお」	機		関		長	太田	誠路
	班員	測量船「いせしお」	主	任	航	海	\pm	畠山	秀二
	班員	測量船「いせしお」	主	任	機	関	\pm	清水	哲朗
(資	料整理	里班)							
	TIT E	应回应反流 [但 		<u>.</u> ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	∃⊞	*	<u>بل</u>	++	 »/4

班長 第四管区海上保安本部海洋情報部海洋調查課 海 洋 調 查 官 並木 正治 班員 第四管区海上保安本部海洋情報部海洋調查課 海洋 調 查 官 付 後藤 礼介

(5) 観測方法

常滑港付近の4測点(図1-2)に、図2の流速計設置要領図の方法により吊り下げ型 超音波流速計(以下、「流速計」と言う。)を設置し、15昼夜の連続観測及び数昼夜の 連続観測を実施した。流速計の設定値等をまとめると表1のとおりである。

デー	タ No.	241515(潮流観測資料番号)									
設置	位置	常	常滑港付近 34-48-45N 136-46-47E								
使用液		RDInstr	ruments 社製 V	Workhorse (30	0kHz)						
測定間隔	10分	測定時間	2 分	標準偏差	1.2cm/s						
発信数	240ping	観測層数	25 層	観測層厚	1.0m						
ピング間隔	0.5s	塩分	33 ‰	水温	20 °C						
オーフ゛コム No.	suiro10	水面から1層までの距離 4.1m									
実測額	観測層	1 層から 19 層(水面下 4.1m ~ 22.1m:1m 毎)									

表1 流速計設定値等一覧 ① A-1:伊勢湾第五号灯浮標

② A-2:アンカー係留

デー	ቃ No.	241516(潮流観測資料番号)					
設置	位置	尚	常滑港付近 34-47-52N 136-48-52E				
使用》	充速計	RDInstr	RDInstruments 社製 Workhorse (300kHz)				
測定間隔	10 分	測定時間	2分	標準偏差	1.2cm/s		
発信数	240ping	観測層数	20 層	観測層厚	1.0m		
ピング間隔	0.5s	塩分	33 ‰	水温	20 °C		
オーフ [*] コム No. suiro9		水面から1層までの距離 3.6m					
実測領	見測層	1 層から 15 層(水面下 3.6m ~ 17.6m : 1m 毎)					

③ B-1:トーガ瀬北灯浮標

デー:	ቓ No.	241517(潮流観測資料番号)					
設置	位置	常	常滑港付近 34-53-42N 136-47-22E				
使用》		RDInstr	ruments 社製 V	Workhorse (30	0kHz)		
測定間隔	10分	測定時間	2分	標準偏差	1.2cm/s		
発信数	240ping	観測層数	20 層	観測層厚	1.0m		
ピング間隔	0.5s	塩分	33 ‰	水温	20 °C		
オーフ゛コム No.	suiro10	水面から1層までの距離 4.1m					
実測額		1 層から 12 層(水面下 4.1m ~ 15.1m: 1m 毎)					

④ B-2:浅瀬表示ブイ

デー	タ No.	2	241518(潮流観測資料番号)					
設置	位置	常	滑港付近 34-49	9-41N 136-49-3	31E			
使用》		RDInstr	ruments 社製 V	Workhorse (30	0kHz)			
測定間隔	10分	測定時間	2分	標準偏差	1.8cm/s			
発信数	240ping	観測層数	15 層	観測層厚	0.5m			
ピング 間隔 0.5s		塩分	33 ‰	水温	20 °C			
オーフ゛コム No.	suiro9	水面から1層までの距離 3.3m						
実測額	- 観測層	1層から5層(水面下 3.3m ~ 5.3m : 0.5m 毎)						

(6) 観測の経過概要

① A-1:伊勢湾第五号灯浮標

5月14日11:15に、測量船「いせしお」により伊勢湾第五号灯浮標に流速計を設置 し、5月30日12:07に揚収した。設置期間中は測量船「いせしお」の作業時に合わせ、 目視による設置状況の見回りを実施するとともに、オーブコムを流速計に抱き合わせ て1日4回位置情報を送信させた。また、巡視艇「しまなみ」の哨戒に合わせ土曜日 及び日曜日の見回りの実施を依頼し、流速計の設置状況を確認した。

【観測期間:5月14日1130~5月30日1200(15昼夜の連続観測)】

② A-2:アンカー係留(設置状況確認要領は、上記① A-1 に同じ。)

5月14日13:40に、測量船「いせしお」によりアンカー係留で流速計を設置した。5 月17日10:55に係留索が切断され流速計が流されているところを、哨戒中の巡視艇 「しまなみ」が揚収。5月19日13:00に再設置したが、5月26日09:20に同様に流さ れているところを測量船「いせしお」により揚収した。このため、予定の15昼夜の 連続観測ができなかった。

【観測期間 : 5 月 19 日 1310 ~ 5 月 25 日 1310(数昼夜の連続観測)】

③ B-1:トーガ瀬北灯浮標(設置状況確認要領は、上記① A-1 に同じ。)

6月16日11:32 に、測量船「いせしお」によりトーガ瀬北灯浮標に流速計を設置したが、台風6号の影響により6月19日10:46に揚収。6月23日14:33 に再設置し、7月9日13:25 に揚収した。

【観測期間:6月23日1440~7月9日1320(15昼夜の連続観測)】

④ B-2:浅瀬表示ブイ(設置状況確認要領は、上記① A-1 に同じ。)

6月23日12:10に、測量船「いせしお」により浅瀬表示ブイに流速計を設置し、7月9日12:30に揚収した。

(浅瀬表示ブイ管理者:中部国際空港(株)安全連絡協議会)

【観測期間:6月23日~7月9日(15昼夜の連続観測)】

また、図3に示す測線A線及びA[']線の測点において、5月21日(A線及びA['] 線)、6月24日(A[']線)、25日(A線)及び7月7日(A線及びA[']線)に測量船 「いせしお」により流速計(RDInstruments 社製 Workhorse(600kHz))で定点観測を 行った。

3. 観測結果(流速計設置観測)

(1) 観測層

表 2 に、%good が 60 以下のデータを欠測とした場合における各層のデータ欠測率を 示す。これを基に、① A-1:伊勢湾第五号灯浮標(以下、「No.241515」と言う。)は 25 層の観測層のうち第 1 層~第 19 層までを精度良く観測出来た層として採用し、データ の解析に使用した。同様に、② A-2:アンカー係留(以下、「No.241516」と言う。)は 第 1 層~第 15 層まで、③ B-1:トーガ瀬北灯浮標(以下、「No.241517」と言う。)は第 1 層~第 12 層まで及び④ B-2:浅瀬表示ブイ(以下、「No.241518」と言う。)は第 1 層~ 第5層までをデータの解析に使用した。

欠測率の高い主な要因としては、干潮時に海底を捉えていたためと思われる。

表2 各層データ欠測率表

① No.241515

層	第1層	第2層	第3層	第4層	第5層	第6層	第7層	第8層	第9層
欠測率(%)	15.3	0.1	1.6	0.6	1.2	1.9	1.9	1.7	1.6
層	第 10 層	第11層	第 12 層	第13層	第 14 層	第 15 層	第16層	第 17 層	第 18 層
欠測率(%)	1.7	1.7	1.6	1.6	1.5	1.8	2.0	2.0	2.5
層	第 19 層	第 20 層	第 21 層	第 22 層	第 23 層	第 24 層	第 25 層	第 26 層	第 27 層
欠測率(%)	5.2	33.8	85.7	88.2	87.9	90.6	60.5		

2 No.241516

層	第1層	第2層	第3層	第4層	第5層	第6層	第7層	第8層	第9層
欠測率(%)	7.1	2.3	0.2	0.3	2.9	5.9	11.0	12.6	9.1
層	第 10 層	第11層	第 12 層	第13層	第 14 層	第 15 層	第 16 層	第 17 層	第 18 層
欠測率(%)	4.7	1.7	0.8	0.8	0.8	7.1	64.7	93.4	77.5
層	第 19 層	第 20 層	第 21 層	第 22 層	第 23 層	第 24 層	第 25 層	第 26 層	第 27 層
欠測率(%)	92.8	67.1							

③ No.241517

層	第1層	第2層	第3層	第4層	第5層	第6層	第7層	第8層	第9層
欠測率(%)	10.3	3.7	2.0	2.6	2.7	3.2	3.1	2.1	1.9
層	第 10 層	第11層	第 12 層	第 13 層	第 14 層	第 15 層	第 16 層	第 17 層	第 18 層
欠測率(%)	1.3	1.7	2.8	9.3	46.4	84.2	74.4	85.9	40.5
層	第 19 層	第 20 層	第 21 層	第 22 層	第 23 層	第 24 層	第 25 層	第 26 層	第 27 層
欠測率(%)	0.1	0.0	/	/	/	/	/	/	/

④ No.241518

層	第1層	第2層	第3層	第4層	第5層	第6層	第7層	第8層	第9層
欠測率(%)	9.8	34.3	68.1	44.2	51.0	55.6	69.1	83.5	70.7
層	第 10 層	第11層	第 12 層	第 13 層	第 14 層	第 15 層	第 16 層	第 17 層	第 18 層
欠測率(%)	65.2	70.3	86.2	64.8	33.7	5.1			

(2) 時系列変化

イ. 流向及び流速ベクトル図





図2 流速計設置要領図



第1層(4.1m)



第2層(5.1m)



図4-1 No.241515流速ベクトル・25時間移動平均・北方東方成分時系列

第3層(6.1m)



第4層(7.1m)



図4-1(続き)

第5層(8.1m)



第6層(9.1m)



図4-1(続き)

第7層(10.1m)



第8層(11.1m)



図4-1(続き)

第9層(12.1m)



第10層(13.1m)



図4-1(続き)

第11層(14.1m)



第12層(15.1m)



図4-1(続き)

第13層(16.1m)



第14層(17.1m)



図4-1(続き)

第15層(18.1m)



第16層(19.1m)



図4-1(続き)

第17層(20.1m)



第18層(21.1m)



図4-1(続き)

第19層(22.1m)



第1層(3.6m)



第2層(4.6m)



図4-2 No.241516流速ベクトル・25時間移動平均・北方東方成分時系列

第3層(5.6m)



第4層(6.6m)



第5層(7.6m)



第6層(8.6m)



第7層(9.6m)



第8層(10.6m)



第9層(11.6m)



第10層(12.6m)



第11層(13.6m)



第12層(14.6m)



第13層(15.6m)



第14層(16.6m)



第15層(17.6m)



第1層(4.1m)



第2層(5.1m)



図4-3 No.241517流速ベクトル・25時間移動平均・北方東方成分時系列

第3層(6.1m)



第4層(7.1m)



図4-3(続き)

第5層(8.1m)



第6層(9.1m)



図4-3(続き)

第7層(10.1m)



第8層(11.1m)



図4-3(続き)

第9層(12.1m)



第10層(13.1m)



図4-3(続き)

第11層(14.1m)



第12層(15.1m)



図4-3(続き)

第1層(3.3m)



第2層(3.8m)



図4-4 No.241518流速ベクトル・25時間移動平均・北方東方成分時系列

第3層(4.3m)



第4層(4.8m)



図4-4(続き)

第5層(5.3m)





図5-1 No.241515流向別流速頻度分布図


図5-1(続き)



図5-1(続き)



	0.05 -0.09
	0.10 -0.19
	0.20 -0.29
\vdots \vdots \vdots \vdots \vdots \vdots	0.30 -0.39
	0.40 -
	(unít : kn)

図5-1(続き)



図5-2 No.241516流向別流速頻度分布図



図5-2(続き)



図5-2(続き)



図5-3 No.241517流向別流速頻度分布図



図5-3(続き)



0.05 -0.09
0.10 -0.19
0.20 -0.29
0.30 -0.39
0.40 - (unít : kn)



図5-4 No.241518流向別流速頻度分布図



第2層(5.1m)



第3層(6.1m) 10% 20% 30% kn < 0. 05 0.05 -0.09 0.10 -0.19 0.20 -0.29 0.30 -0.39 0.40=<



第5層(8.1m) 10% 20% kn







図6-1 No.241515流速別頻度分布図



第10層<u>(13.1m)</u>



















第19層(22.1m)



図6-1(続き)















図6-2 No.241516流速別頻度分布図











第15層(17.6m)









第2層(5.1m) ^{0%} 10% 20% 30% ^{kn} <0.05 -0.09 0.10 -0.19 0.20 -0.29



第4層(7.1m)









図6-3 No.241517流速別頻度分布図







第12層(15.1m)











図6-4 No.241518流速別頻度分布図



図7-1 No.241515流向別最大流速分布図



図7-1(続き)



図7-1(続き)





図7-2 No.241516流向別最大流速分布図



図7-2(続き)



s

Max. Dir. = 337.3 Vel. = 0.59





図7-3 No.241517流向別最大流速分布図



図7-3(続き)



図7-4 No.241518流向別最大流速分布図



第2層(5.1m)



図8-1 No.241515潮流楕円



第4層(7.1m)



図8-1(続き)



第6層(9.1m)



図8-1(続き)



第8層(11.1m)



図8-1(続き)



第10層(13.1m)





第12層(15.1m)



図8-1(続き)



第14層(17.1m)



図8-1(続き)



第16層(19.1m)



図8-1(続き)


第18層(21.1m)



図8-1(続き)





第2層(4.6m)



図8-2 No.241516潮流楕円



<u>第4層(6.6m)</u>



図8-2(続き)



第6層(8.6m)



図8-2(続き)



第8層(10.6m)



図8-2(続き)



<u>第10層(12.6m)</u>



図8-2(続き)



第12層(14.6m)



図8-2(続き)



第14層(16.6m)



図8-2(続き)





第2層(5.1m)



図8-3 No.241517潮流楕円



第4層(7.1m)



図8-3(続き)



第6層(9.1m)



図8-3(続き)



第8層(11.1m)



図8-3(続き)



第10層(13.1m)



図8-3(続き)



第12層(15.1m)



図8-3(続き)



第2層(3.8m)



図8-3 No.241518潮流楕円



第4層(4.8m)



図8-4(続き)





図9 No.241515第1層(4.1m)水温データ時系列



図10 No.241516第1層(3.6m)水温データ時系列



図11 No.241517第1層(4.1m)水温データ時系列



図12 No.241518第1層(3.3m)水温データ時系列

第5層(8.1m) 第5層(8.1m) 第5層(8.1m) 第5層(8.1m) 第5層(8.1m)

春季大潮期

夏季大潮期

春季小潮期

夏季小潮期

第1層(4.1m)